

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300024		
法人名	有限会社こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森(ももユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番地		
自己評価作成日	平成24年6月24日	評価結果市町村受理日	平成24年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=2192300024&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者本位での生活を支援する。 出来ることは勿論のこと、出来ないことを支援し、積極的に自分らしい生活を支援する。 地域との繋がりを重視し、地域資源としての役割を果たすことができる事業所を目指す。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に親しまれてきた寺が経営母体であり、利用者とも慣れ親しんだ関係である。経営者は看護師で、福祉の関係の実績を積んでおり、地域住民の相談窓口となり、特に介護のエキスパートである。ホームは田園に囲まれ、養老山脈を南に望み、広い敷地内に畑を作り、利用者は利用前と同じ環境で生活ができる。近隣との連携も良く、近くの工場が「見守り隊」の役割を担ってもらえるなど、地域の一員として受け入れられている。職員に外部研修へ積極的に参加する機会を提供し、質の高いホームの運営に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(もも)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の課題であった4項目め地域社会との繋がりを意識して1年間、活動を行った。	「尊厳のある生活・家庭的な生活環境・楽しみ・地域とのつながり」を理念とし、地域住民の理解のもと、利用者に開放的な運営をしている。玄関、居室に理念を掲示し、会議でも全職員で確認・共有し、利用者の尊厳を大切に生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との会話が増え、近所の方から季節の野菜を頂いたりするという所まで発展してきている。	法人は地域に親しまれてきた寺であり、複数の福祉事業を行い、地域住民の介護等における相談窓口でもある。また、小中学生に体験学習の場としてホームを提供し交流している。近隣の企業による見守りの協力体制もあり、利用者は家族的な支援を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺を散歩されている近隣の方々に、入所されている利用者の現状を説明し、GHIに対する認識度が上がっていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊勢湾台風で、この地区は水害に見舞われたことをこの会議で知り水害に対する訓練の必要性を認識し、訓練計画の策定を開始した。	2ヶ月に1回、区長、民生委員、行政、家族、利用者が参加し開催している。開催日が平日であり、参加出来る家族が限定されるため、開催日程を検討している。区長から伊勢湾台風時の被害が報告され、早急に訓練することを確認し、資料収集など訓練計画を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加要請を必ず行い、実情の報告もその都度、行っている。	日頃から連携を密にし、運営状況等を報告している。運営推進会議には、町担当者が毎回参加し、気軽に相談できる関係である。「町洪水ハザードマップ」等、防災の協力体制も構築している。行政の連絡会議、研修には積極的に参加し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット出入口及び玄関の施錠も行ってない。	身体拘束ゼロのマニュアル・虐待の定義を作成し、職員の目につく場所に掲示し、日々確認をしている。利用者の行動を阻害することも身体拘束であるなど、ケアにおける様々な場面について、職員が日々話し合い取り組んでいる。玄関等は施錠せず解放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関する虐待の定義を事務所内に掲載し、業務に入る前に再度、確認している。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	さくらの利用者のご家族様で成年後見人になられた方がみえ、権利擁護の大切さを認識するようになった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月の改定は、「改定に関する同意書」を全家族から頂き、理解・納得されたものと認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から、利用者に関する職員への要望に関しては傾聴し職員内で出来る事は申し送りノートに記載し、すぐに対応している。	日々利用者、家族からの意見や要望を聞き、ノートに記載し、すぐ実行できる意見については管理者の指示のもと実践している。家族が留守にする場合や家族がいきなり来訪し利用者とは外出する場合があります、不都合が起きたため、家族と事業所との間で、事前に連絡を取ることを徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案は口頭で受け付けている。福利厚生等の件を提案し、即時改善を頂きました。	日常的に、職員と経営者は、意見や要望を気軽に提案できる関係を築いている。職員から「健康診断や福利厚生面」の提案があり、働きやすい職場づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート形式にて記入してもらっている。その意見は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会への参加を推進している。勉強会・会議の開催も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており他のグループホームとの交流・意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階では、傾聴することを心掛けている。笑顔での対応も忘れない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なこと、要望は必ず聞いている。最初は不安ばかりであるので、納得がいくまで聞いてもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先の課題をアセスメントの段階で職員と共有するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	既に入所されている方々は職員の顔も覚え、家族の一員と認識されていると思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に対する制限は全く行っていない。外出支援を積極的にお願している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問された方には、また、来てあげて欲しいと願っている。また、ご家族等の面会の際にも、なじみの方を、よろしければ連れてきてあげて欲しいとの依頼も行っている。	寺の帰りや野菜を届けになど、地域の方の来訪が多い。訪問者を丁寧に受け入れ、次回訪問の依頼もしている。地域の利用者が多く、散歩時に気軽に会話を交わしている。地域での敬老会・親戚の法事に参加するなど馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、同じ生活の場であるという認識が強くなっており、利用者の中で、世話焼きさんもみえ、上手く支えあってみえると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たよりや文書を送ったりしている。 その文書を見られて、わざわざお礼にみえた方もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書に本人の希望を優先的に記入している。希望の訴えが出来ない方は、その時々意向を尋ね、希望に添うよう努めている。	今の生活の中で「楽しみを見つけ出す」ことが全職員に意識づけており、寄り添うケアを通じ、思いや意向の把握に努めている。野球の話題、食べることや旅行など、様々な場面で利用者の希望を把握することができる。困難な場合は家族に聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク、アセスメントで拾いきれていない生活歴等は、日常会話の中から自然に聞く姿勢が職員間でも浸透していると思われる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の観察をし、異変や特変があれば職員間で報告・相談をして皆で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの担当制をとっており、その担当者のもとに「気付き」を各職員が告げ、モニタリングに反映させている。	利用者毎に担当職員を決め、フローチャートに気付きやモニタリングを1ヶ月毎に記入している。家族、利用者の意見、要望を聞いている。全職員で検討し、専門職の意見も採り入れ、介護計画を作成している。現状に即した対応と介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用、及び、個別の介護・看護記録を1時間ごとに記入することで職員1人1人、連続性を持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に位置する(同一経営事業所)デイサービスに行き、入所前に知り合いになったデイ利用者との再会を楽しんだりしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学6年生が、授業の一環で福祉に関する勉強を行っており、年に1回訪問を受け交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の同意の下、大半の利用者が訪問診療医に診て頂いている。協力医の専門分野以外の科には、職員・看護師・家族がかかりつけ医に通院の介助を行っている。在宅時からのかかりつけ医に継続して診て頂いている方が1名。	かかりつけ医については、契約時に説明し了解を得ている。ホームの協力医が往診しており、利用者のほぼ全員が、協力医をかかりつけ医としている。利用前のかかりつけ医を継続する場合は、受診支援は家族が対応している。緊急時は、家族と相談し、ホームが対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変に気付いたら、職員である看護師に即時連絡している。看護師が休みの場合でも電話連絡をし、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	SW、各階の看護師と連絡を密にしている。入院の際は、1週間に最低1回は訪問し、状況の確認を行うなど、病院との連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取りにかかる指針の説明をしている。利用者の死生観・家族の死に対する意見も聞くようにしている。終末期に該当される方が居ない為、積極的な取り組みは遅れていると思われる。	看取り指針があり、契約時に説明している。経営者は終末期、看取りまでの支援をする思いがある。設立からまだ2年であり、今のところ該当者はないが、支援できるように体制づくりを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成23年3月に職員全員参加で、救命救急講習(養老消防署主催)を受講している。本年度も秋に同じ講習を受講予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での重大課題である。避難する術はあっても、早期復興に向けたBCPの策定の意識を持つようにしている。地域との連携は、行政にも提案事項となっている。	年2回の避難訓練を実施している。地域別防災訓練が再来年の計画予定である。ホームとしては、独自に夜間の防災・火災の避難訓練を計画している。地域との連携は継続課題である。	独自の訓練を計画中であるが、早期の実施と、可能であれば運営推進会議等で意見、提案し、地域住民の参加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者は家族の一員との認識が強く、時として片苦しい呼び方(呼称)をしない時があるが、それが全て人権を損ねているとは思えない。	一人ひとりの人権を尊重し、笑顔で優しい言葉かけを行っている。年長者として敬い、誇りを傷つけないように受容の気持ちで対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は最優先している。しかし、職員の構成・力量から、その思いに添えない場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位、その人らしい生活を支援するための施設である。ただ、完璧に希望通りの支援が来ている訳ではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、家族が持参された着慣れた衣類を着用して頂いている。おしゃれの概念が難しく、虐待と取られないように留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは(一部の利用者を除いて)皆さん好きである。庭で作っている野菜等の収穫を一緒に行ったりしている。嫌いな食べ物を聞かずにしている。	広い庭の畑で栽培した野菜と一緒に収穫し、食材として準備作業も行っている。「元気の源は食糧を食べること」の考えから、ゆっくり楽しい食事の時間を、職員と共有している。車いすのままでは、食卓の高さが不安定であり、嚙下に支障がないように配慮が必要である。	車いす介助利用者の食卓の高さを調節することはできないか、または、食事のときに、車いすから椅子に入れ替えることはできないかなど、一度検討された。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護・看護記録に食事・水分摂取量を記載し、職員は常に数値を意識している。医師の指示がある利用者には特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行なっている。訪問歯科診療を受ける方は勿論であるが、そうでない方にも、医師にアドバイスを頂いたりしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ対応であった利用者で、時間を決めたり、特有のサインを見逃さずにトイレ誘導を行い、2名の方のおむつを外すことが可能になりました。	排泄パターンを把握し、利用者の身体の動き、表情などに日々目配りし、一人ひとりを把握している。トイレ誘導をすることで、大腿骨の脱臼を防ぎ、オムツの量を軽減するなどの効果が表れている。羞恥心を気遣う配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを毎日しており、その事についての申し送りもしている。水分摂取量への意識も強く持っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1度の入浴が基本形。汚染時にはその限りではない。午後入浴という時間の範囲内での希望は聞いている。	特殊浴が設置してあり、利用者の安心が得られ、職員の負担を軽減している。異性介助はあるが、利用者の気持ちを尊重して支援している。隔日の入浴が基本であるが、汚染した場合はその都度、柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・皮膚状態・年齢・過去生活歴を考慮し、眠ることに関しては満足度が高いと思われる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、協力医の医師に一任しており、指示通り間違えることがないように、チェック機能を働かせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「手を合わせる事が習慣になっている」(信仰心の厚い世代)方が多く、お寺への参拝頻度を高く取り、外出支援の一環に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的に可能な方には、家族による外出支援をお願いしている。なじみの場所は家族が職員よりも良く分かっており、家族でなければ出来ない支援は家族にお願いするようにしている。	日常は、広いホームの庭を散歩したり、近くの寺へ参拝に出掛けている。外出が不可能な利用者は外気浴を兼ねて、庭のトマトなどを収穫するなど工夫した支援を行っている。遠方の外出を希望する利用者には、家族に依頼している。	

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持つ事は大切であるが、持ったが為に被る精神的なリスクが高く、お金の所持は賽銭程度にして頂いている。 1名の方はこの支払いも含め全て金銭管理されている方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をされることはある。 突然、GHの事務所内の電話でかけるとご家族も心配されることがあり、職員が立会いのもとで行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が広く取られており、外界に広がる一面の田畑により、季節感を感じることができる。稲の成長等で、今の季節を認識できるような言葉かけも行っている。	共用の空間は天井が高く、空調設備も充実し、安心感、開放感がある。和式の調度品で整え、木のぬくもりが感じられる落ち着いた雰囲気である。ゆったりソファに掛け、窓越しに季節感を味わう事ができ、広い庭や山々を眺め、思いのままに過ごすことができる。また、行事の写真や季節の花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースはフリースペースでありいつ、どこでも使用可能である。ただ、利用者間で、自分の居場所を確立しており、それを取って替えることはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の作品を居室前に貼ったり、愛犬の写真を居室に貼ったり、在宅で使用していた・着用していた私物を居室に持ち込むことで、在宅生活の継続を支援している。	管理者が、事前の家庭訪問時に、利用者が一番大切にしている物や趣味を確認し、利用者の馴染みの物を持ち込んでもらうようにしている。思い出の写真を飾り、ベッドは備え付けである。季節毎の衣類の交換は、家族に自宅から持って来てもらい、整理整頓をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上、問題はない。人為的に作られた障害物は置かず、スペースを広く取るようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300024		
法人名	有限会社こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森(さくらユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番地		
自己評価作成日	平成24年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(さくら)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の課題であった4項目め地域社会との繋がりを意識して1年間、活動を行った。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との会話が增え、近所の方から季節の野菜を頂いたりするという所まで発展してきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺を散歩されている近隣の方々に、入所されている利用者の現状を説明し、GHIに対する認識度が上がっていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊勢湾台風で、この地区は水害に見舞われたことをこの会議で知り水害に対する訓練の必要性を認識し、訓練計画の策定を開始した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加要請を必ず行い、実情の報告もその都度、行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット出入口の施錠は行っているが利用者の身体的な危険を感じられる時以外は玄関の施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関する虐待の定義を事務所内に掲載し、業務に入る前に再度、確認している。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現に、成年後見人になられた方がみえ手続きの方法等、実践を体験し、権利擁護とはどのようなものかの認識が深まっていると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月の改定は、「改定に関する同意書」を全家族から頂き、理解・納得されたものと認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から、利用者に関する職員への要望に関しては傾聴し職員内で出来る事は申し送りノートに記載し、すぐに対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案は口頭で受け付けている。福利厚生を提案し、即時改善を頂きました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート形式にて記入してもらっている。その意見は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会への参加を推進している。勉強会・会議の開催も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており他のグループホームとの交流・意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階では、傾聴することを心掛けている。笑顔での対応も忘れない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なこと、要望は必ず聞いている。最初は不安ばかりであるので、納得がいくまで聞いてもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先の課題をアセスメントの段階で職員と共有するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	既に入所されている方々は職員の顔も覚え、家族の一員と認識されていると思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に対する制限は全く行っていない。外出支援を積極的にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問された方には、また、来てあげて欲しいとお願いしている。また、ご家族等の面会の際にも、なじみの方を、よろしければ連れてきてあげて欲しいとの依頼も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、同じ生活の場であるという認識が強くなっており、利用者の中で、世話焼きさんもみえ、上手く支えあってみえると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たよりや文書を送ったりしている。その文書を見られて、わざわざお礼にみえた方もいらっしゃいます。ご家族に会った時に、現状を話したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書に本人の希望を優先的に記入している。希望の訴えが出来ない方は、その時々意向を尋ね、希望に添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク、アセスメントで拾いきれていない生活歴等は、日常会話の中から自然に聞く姿勢が職員間でも浸透していると思われる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の観察をし、異変や特変があれば職員間で報告・相談をして皆で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの担当制をとっており、その担当者のもとに「気付き」を各職員が告げ、モニタリングに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用、及び、個別の介護・看護記録を1時間ごとに記入することで職員1人1人、連続性を持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に位置する(同一経営事業所)デイサービスに行き、入所前に知り合いになったデイ利用者との再会を楽しんだりしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学6年生が、授業の一環で福祉に関する勉強を行っており、年に1回訪問を受け交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の同意の下、大半の利用者が訪問診療医に診て頂いている。協力医の専門分野以外の科には、職員・看護師・家族がかかりつけ医に通院の介助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変に気付いたら、職員である看護師に即時連絡している。看護師が休みの場合でも電話連絡をし、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	SW、各階の看護師と連絡を密にしている。入院の際は、1週間に最低1回は訪問し、状況の確認を行うなど、病院との連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取りにかかる指針の説明をしている。利用者の死生観・家族の死に対する意見も聞くようにしている。終末期に該当される方が居ない為、積極的な取り組みは遅れていると思われる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成23年3月に職員全員参加で、救命救急講習(養老消防署主催)を受講している。本年度も秋に同じ講習を受講予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での重大課題である。避難する術はあっても、早期復興に向けたBCPの策定の意識を持つようにしている。地域との連携は、行政にも提案事項となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者は家族の一員との認識が強く、時として片苦しい呼び方(呼称)をしない時があるが、それが全て人権を損ねているとは思えない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は最優先している。しかし、職員の構成・力量から、その思いに添えない場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位、その人らしい生活を支援するための施設である。ただ、完璧に希望通りの支援が出来ている訳ではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、家族が持参された着慣れた衣類を着用して頂いている。 おしゃれの概念が難しく、虐待と取られないように留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは(一部の利用者を除いて)皆さん好きである。庭で作っている野菜等の収穫を一緒に行ったりしている。 嫌いな食べ物を聞くようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護・看護記録に食事・水分摂取量を記載し、職員は常に数値を意識している。医師の指示がある利用者には特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行なっている。 訪問歯科診療を受ける方は勿論であるが、そうでない方にも、医師にアドバイスを頂いたりしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の特有のサインを見逃さず、トイレに誘導を行うようにしている。また、時間を決め、トイレに誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを毎日しており、その事についての申し送りもしている。水分摂取量への意識も強く持っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1度の入浴が基本形。汚染時にはその限りではない。午後入浴という時間の範囲内での希望は聞いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・皮膚状態・年齢・過去生活歴を考慮し、眠ることに関しては満足度が高いと思われる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、協力医の医師に一任しており、指示通り間違えることがないように、チェック機能を働かせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	戸外に出て散歩をしたり、野菜を収穫したり、洗濯物を畳んだり色々な支援を行っている。喫煙者もみえ、職員見守りの下、喫煙を継続される方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的に可能な方には、家族による外出支援をお願いしている。なじみの場所は家族が職員よりも良く分かっており、家族でなければ出来ない支援は家族をお願いするようにしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお金の持ち込みは支援していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をされることはある。突然、GHの事務所内の電話でかけるとご家族も心配されることがあり、職員が立会いのもとで行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が広く取られており、外界に広がる一面の田畑により、季節感を感じることができる。稲の成長等で、今の季節を認識できるような言葉かけも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースはフリースペースであり、いつでもどこでも使用可能である。ただ、利用者間で、自分の居場所を確立しており、それを敢えて変えることはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた・着用していた私物を居室に持ち込むことで、在宅生活の継続を支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上、問題はない。人為的に作られた障害物は置かず、スペースを広く取るようにしている。		